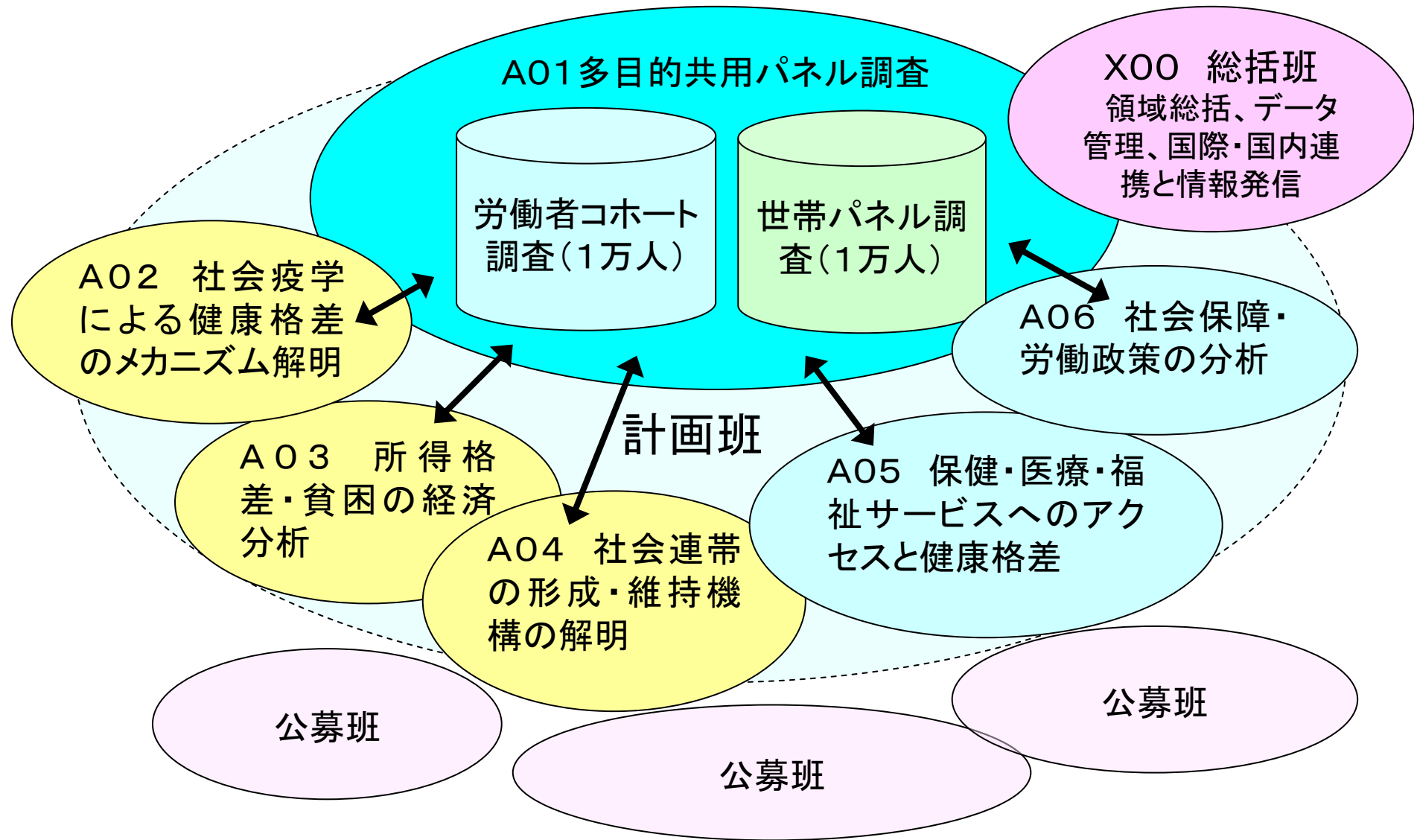


研究領域名	現代社会の階層化の機構理解と格差の制御：社会科学と健康科学の融合
領域代表者名	川上 憲人（東京大学・大学院医学系研究科・教授）
研究期間	平成21年度～25年度
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 社会の階層化と健康の社会格差の実態解明と制御 </div>	
<p>1. 本領域の目的</p> <p>本領域は、現代社会の階層化と健康格差のメカニズム理解と、社会格差の制御方策の立案という、わが国のみならずアジア・欧米においても社会的に重要な課題の解決に学術的に貢献し、またこれを通じて、社会の階層化と健康の社会格差という研究領域について、社会科学（社会学、心理学・行動科学、経済学、政策科学等）と健康科学（公衆衛生学、保健学、脳科学等）を統合した新しい融合学術領域を確立することを目的とする。</p>	
<p>2. 本領域の内容</p> <p>本領域では、計画研究A01による大規模多目的共用パネル調査を共通の資源としながら、A02から06までの各計画研究が、社会階層による健康格差の実態およびその医学・心理学・社会学・経済学的なメカニズムの解明を行うと同時に、保健・医療・福祉サービスおよび社会制度・労働政策の観点から健康格差の制御方策に関する研究を推進する。</p>	
<p>3. 期待される成果</p> <p>期待される成果は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. わが国の社会の階層化の実態とその健康の社会格差への影響の実態が把握される。 2. 健康の社会格差の医学・生物学的、心理学的、社会学的メカニズムが解明される。 3. 社会制度・政策の社会の階層化への影響を評価し、健康の社会格差の制御におけるその役割が解明される。 4. 社会関係資本など社会の統合化プロセスの促進による社会格差の制御の可能性が解明される。 5. 大規模多目的パネル調査から社会科学、健康科学にまたがる公開データベースを構築する。 <p>これを通じて、社会の階層化と健康の社会格差に関する社会科学と健康科学を融合した新学術領域を確立する。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>【キーワード】</p> <p>健康の社会的決定要因：人々の健康を規定する所得、雇用・労働、その他の社会的地位などの社会経済的条件のこと。これによる不利と不平等がもたらす健康問題の解決は、世界の健康づくりの新しい目標になっている。</p> <p>社会関係資本：人々の協調行動を活発にする「信頼」「規範」「ネットワーク」といった社会の特徴であり、社会における社会全体の人間関係の豊かさの指標。その推進は健康の社会格差の解決方策の1つとして期待されている。</p> </div>	
<p>【科学研究費補助金審査部会における所見】</p> <p>本研究領域は、社会科学と健康科学を統合した新しい融合学術領域を確立し、社会の階層化と健康の社会格差のメカニズムの解明と格差制御の方策の検討を目指している。世界的経済危機を迎え、我が国においても社会的格差は従来とは質的、量的に異なった局面を有している一方で、健康と社会的要因の間の因果関係は不明瞭な状況にある。その解決に当たっては、従来とは異なる発想に基づくアプローチが必要であると考えられ、社会的意義の強いテーマとして期待される。社会的要因と健康の因果関係を明らかにするためには、社会疫学の研究者を中心に、社会学、経済学、公衆衛生学の研究者からの学際的協力関係が必要であり、その意味においても、本研究領域の果たす役割は大きいと考えられる。領域推進の計画においては、チャレンジングな試みとして、共通の議論の土台としての全国規模の多目的共通パネル調査が計画されており、調査企画段階からの緊密な学際的協力に基づき、調査方法を綿密に練り上げて遂行することで、日本の学術研究の資産となるような成果とデータベースの構築が期待される。</p>	

「社会階層と健康」領域研究の構成



実態・メカニズム解明

制御方策立案